

アネモネ「ミストラルプラス」シリーズの夜冷育苗期間の検討

○本田由美子・中村 広・中村 薫¹⁾

(宮崎総農試・¹⁾ 東臼杵農林振興局)

【目的】

アネモネ「ミストラルプラス」シリーズはイタリア biancheri 社が育成した品種で、これまでの品種よりも大輪で豪華なため近年需要が高まっている。しかし、「ミストラルプラス」シリーズは新系統であるため、生理生態も分かっておらず、栽培技術も確立していない。

また、アネモネは球根冷蔵による促成栽培が可能だが、「ミストラルプラス」シリーズは、イタリアから実生で輸入されるため、栽培1年目は実生からの育苗が必要である。

アネモネは冷涼な気候を好み、高温下では生育が著しく劣るため、育苗期間が高温になる宮崎県では通常の雨よけ栽培では育苗が困難である。

そこで、草花類の夏期の育苗に行われる夜冷育苗がアネモネ「ミストラルプラス」シリーズに対する効果について今回は、夜冷育苗期間の検討を行った。

【材料及び方法】

品種は「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」および「ミストラルプラスブルー」を用いた。育苗期間は93日、120日、140日の3区を設け、2018年5月17日および6月6日、7月3日にメトロミックス 350（ハイポネックス）を充填し、128穴のセル成型トレイに播種した。

播種後14日間は20℃のインキュベータ内で静置し、光条件は暗黒とした。その後はセル成型トレイを雨よけハウスに移し、昼温はなりゆきで、6:30から8:30の間は10℃夜冷庫内で管理した。

2018年10月3日に定植し、栽植様式は株間20cm、条間20cmの3条植えとした。昼間は15℃で換気し、夜温の暖房設定温度は7℃とした。試験は宮崎県総合農業試験場内のフッ素フィルム被覆ハウスで行った。試験規模は1区12株3反復とした。

【結果及び考察】

定植時の苗は育苗日数が長いほど大きかった（図1、2）。「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」の140日育苗した区では根詰まりが見られ、定植後の活着が他の区に比べて劣った。

1番花は、「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」の120日育苗した区が12月上旬に最も早く開花した。他の区でも12月中に1番花が開花した（データ略）。

切り花重は両品種とも93日育苗区が最も重かった。切り花長は全ての区で約40cm、茎径6~7mmであり、十分な品質の切り花が得られた。

3月末までの採花本数は、「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」では120日育苗した区が1株あたり10本以上と最も多かった。「ミストラルプラスブルー」は全ての育苗期間で1株あたり10本以上採花でき、140日育苗した区が最も採花本数が多かった（データ略）。

以上のことから、128穴セルトレイでの夜冷育苗では、「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」は育苗期間120日、「ミストラルプラスブルー」は140日が良いと思われた。

「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」の140日育苗は、定植時の苗は大きかったものの、根詰まりが見られたため、育苗時の容器と育苗期間のさらなる検討が必要と思われた。



図1 定植時の苗の様子

品種：「ミストラルプラスホワイトセンターブラック」

(左から 140日育苗、120日育苗、93日育苗)



図2 定植時の苗の様子

品種：「ミストラルプラスブルー」

(左から 140日育苗、120日育苗、93日育苗)